教師力アップのための ビジネス理論入門

日本語教師が最低限知っておいたほうがいいビジネスの用語や概念を、日本語教育場面に当てはめて解説します。ビジネス理論を授業に応用して、教師力を磨きましょう。

イラスト○渡辺鉄平

今月のテーマ　リーダーシップ論の変遷

佐々木瑞枝

武蔵野大学文学部・大学院教授、エコールプランタン日本語教師養成講座講師、日本語ジェンダー学会会長。日本語教育の実践派として知られ、「外国語としての日本語」(講談社)、「日本語教育の教室から」(大修館)など著書多数。また文科省検定中学国語教科書にも書き下ろし文が掲載されている。ホームページ http://www.nihongonosekai.com/

時代とともに変わるリーダーのタイプ

あなたは、「リーダー」とはどんな人だと思いますか。

ビジネス界では「A社長は強いリーダーシップを発揮して会社を立て直した」などのように、よく「リーダーシップ」という言葉が使われます。日本語の中級以上のクラスになると、読解のクラスなどで経済に関する記事を読むことも多いと思います。そんなとき、教師が「リーダーシップ」について説明できるといいのですが、実は、「リーダーシップ論」は、この五〇年の日本社会の中で大きく変遷しています。授業ではどんな説明が必要とされているのか、一緒に考えてみましょう。

タイプA 家長型リーダーシップ

◆優れたリーダーには、ほかの人にはない何か優れた特性があるはずである。

◆その特徴を数多く持っている者がリーダーとしてふさわしい。

その特性は?

- **発想力がある**
- **話がうまい**
- **寛大である**
- **健康である**
- **声が大きい**
- **人気がある、など**

日本語のクラスにも、きっと、タイプAのようなリーダーが存在するのではありませんか。何か行事をするときに、皆から期せずして「グループリーダー」に選ばれる人がいるに違いありません。私も三〇年以上日本語教師をしていますが、こういう特性を備えた学生の存在は、教師にとって実にありがたいものです。

タイプB 変革型リーダーシップ

◆固定概念を打ち砕き、変革の機動力となるリーダー

◆変化を仕掛け、変化を創り出すリーダー

◆目標を明確に掲げ、フォロワーの仕事に対して意味を与えチャレンジを鼓舞する

その特性は?

変革を起こす力を持っている人、相手をよく見て個別的な配慮のできる人、相手の話をよく聞く人(傾聴する人)

リーダーにもさまざまなタイプがあります。タイプAに対してタイプBは、組織が迷っているときに問題を明確にし、ずるずると安易なほうに行きがちな組織を、知的に活性化させ、革新的、創造的なものへ向かわせる人です。

どんな日本語のクラスにも、こういう学生がいるのではありませんか。みんなが困っているときに、その問題の所在はどこにあるのかを考え、クラスの皆に親切にアドバイスし、皆が考えもしない解決策を考え出し、頼りにされる存在です。そういう人は、自分では望んでいなくても、いつの間にかリ

WORKS

グループディスカッション

時代が変わるにつれて、リーダーシップはどう変わってきたのでしょう。

日本の社会の変化につれて、必要とされるリーダーシップのタイプも変わってきています。
(　　)に、下記からリーダーシップのタイプを選び、考えの根拠を述べ、
グループでディスカッションしながら答えを考えてください。

1950年代……戦後の起業期(　　)
↓
1960年代……日本の経済、成長期(　　)
↓
1970年代……日本がJAPAN AS NO.1ともてはやされた時期(　　)
↓
1980年代……バブル経済期(　　)
↓
1990年代……デフレ低迷期(　　)
↓
2000年以降…2009年、再びアメリカからの経済不況が日本も襲っています。(　　)

A カリスマ型リーダーシップ
カリスマ性で経済の成長と共に会社を引っ張っていく

B 戦略型リーダーシップ
戦略を立てて、みんなをリードしていく

C 組織型リーダーシップ
組織を大事にしてリーダーシップを発揮する

D 価値創造型リーダーシップ
周囲に対して影響力を発揮し、新しい提案をしていく

E 家長型リーダーシップ
ほかの人にはない特性を発揮してみんなを引っ張っていく

F 変革型リーダーシップ
目標を明確に出し、フォロアーのチャレンジを鼓舞する(固定した一人ではなく、次々に変革型リーダーが生み出されることもある)

イラストスペース
横54mm×縦70mm

どうして新しいリーダーシップ論が次々と出たのでしょう?

理由1. 組織・集団は時間がたてば硬直化する
理由2. 日本社会の経済環境が大きく変化した
理由3. これまでのリーダーの在り方では通用しなくなった

これからもリーダーの在り方は次々と変わっていくと思います。日本語クラスで学習者の国のリーダーのタイプについて発表してもらい、なぜそのタイプのリーダーが必要なのかを考えることも、「自ら考える力」を養うクラスになると思います。

学習のヒント

①松下幸之助、カルロスゴーンなどの略歴を読み、リーダーシップについて考える授業(読解、発表のクラス)
②自分があこがれるリーダーについて1分間スピーチをする授業(スピーチのクラス)
③自分の周りの日本人に「どんなリーダーが必要と思うか」をインタビューして、 その結果をレポートにまとめる授業。(インタビュー&レポート)

1 F、2 A、3 C、4 B、5 F、6 D